

昭和五十五年十一月

_ 几 ___ 号

第九十三回国会(常会) K おける文部大臣 の所信 . 54

▽資料	・ 国立能楽堂、国立文楽劇場の設立について □	地域伝統文化の保存と振興	★ (出席者) 尾上 菊蔵・金春惣右衛門	▼ 伝統芸能の保存と育成をめぐって** ▽座 談 会	* 日本の建築	寺裏∭云铳文化の継承と発展
文化庁文化財保護部管理課…42	無形文化民俗文化課… いて	三隅 治雄…31		8		



▽事例紹介 伝統技術に生きる 生涯教育と文化 和紙と和紙を支える人々

▽現地ルポ

柳橋

真 :: 45

日立ささらの伝承と地域の文化活動 山崎 前沢 正和 57 満::51

連載第2回

エネルギー

システ

ムとその評価に関する研究

茅

陽

: 89

八〇年代の生涯教育の見通し ≫海外教育ニュース……大臣官房調査統計課 瑞浪市化石博物館
◎地域文化施設めぐり⑮…… 80

校の諸問題(西ドイツ) 業日数を増やせ(フランス)/総合制学表(イギリス)/授業時間を短縮し、授合衆国)/特殊教育に関する政府白書発 (アメリカ

家庭教育に関する世論調査●文部省のまど

昭和五十五年度学校基本調査速報 ……大臣官房企画室

83

……大臣官房調查統計課 86

≫外国だより

74

文化財◎額田寺伽藍並條里図 フランス高石湯山 道明 77

画◎太田聴雨

星をみる女性

初等教育資料目次・ ∭次号目次…… 中等教育資料目次24 (岩崎吉一)

表紙 小川 雅子 カ ッ ト 内部



和紙と和紙を支える人びと

にそぎ、 分を除いた四十センチほどの竹ひごの端をわずかに斜めこんなに長く節のない竹がある訳がありません。節の部を指しながら、「これは一本の竹ひごではないのです。の声がもれているのだが、一メートルを超す漉き簀の幅の声がもれているのだが、一メートルを超す漉き簀の幅 かく砕けて虹をつくる。すでに会場のあちこちから賛嘆まれている。この世界一美しい簾を通して、陽光がこま無数の竹ひごが、絹の特製の編糸で、整然と等間隔に編 巻いてきた簀をひろげる。細く丸くみがき上げられた、 紙は、このように美しい道具から生れてくるのです。」と き簀を持っていく。そして、話のはじめに、「美しい和私は集りで和紙の話をする際に、実物の紙とともに漉 そのそいだ面どうしを合せて、 その上を編糸で

真

人が「ほう」と驚きの声を上げて、身をのりだして簀を編んで一本としているのです。」と説明すると、殆んどの 改めて見つめる。

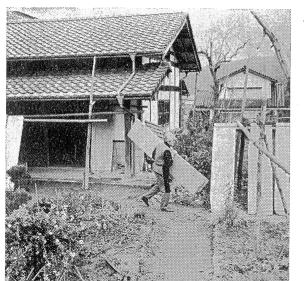
中央の一節か、二節しか用いられぬという、 知県夜須 町羽尾附近の山林に限 られている)。一本の竹でも 簀用の竹の生育や伐採を専門に 育った淡竹、または真竹でなければならぬ。従って漉きで、特に竹林ではなく、松や桧等の林の中で一本だけで ければならない。竹は日当りの良い、乾燥した地のものともに水に丈夫な硬い材質を用いて頑丈に作られていな けられ、激しくゆすられるのであるから、 精緻で美しいばかりではない。日に千回ほども水に浸 扱う人がいる(現在、高 繊細であると 厳密な材料

が、八種類ほど ため、 定の本数で撚り合わせることから、 うことは、 9 八種類ほどの段階に分れる。ひごの太さが違うとい 絹糸では間に合わず、 編む絹糸の太さもそれに応じた種類に分れる。 ひごとひごの透き間が違うということである 漉く紙の厚薄や種類で、 をかけた糸で、 繭から取った、 編糸づくりの仕事が取った、絹の原糸を所 平均に力を加えて編 竹ひごの太さ 市



復現する時に用いた小型のものである。栄四郎さん。今、漉いている簀桁は、正倉院の紙を雁皮紙で重要無形文化財保持者になっている安部

紙である。 紙を手がけていたが、昭和六年に民芸運動の柳宗悦氏に 産物の紙のようにあふれ 厚紙の雁皮紙を、 出雲民芸紙の道を開拓した。今でこそ、 いるのは、 若いころの安部さんは三椏紙などいろ 「上古の紙の再来だ。」と賞められて以 島根県八雲村の安部栄四郎さん 出してきて、 安部 25 民芸紙は土 λ ついろのだが



板干しをする安部さん。現在、78歳だが、元気に紙 漉きを続けている。 先年はパリやニューヨークで、 今 年は北京で紙の展覧会を開催した。

方のむらがあらわに出て、 つめた仕事をふい **簀編みさんは鋏で糸を全部切って、十日ほどの根** 編み上げた時は奇麗に見えても、 にしてしまって、 簀が波をうつ。 はじめか 水に浸けると締 そうなっ らや

というものが、最も良く納得してもらえる。 の紙漉きの仕事の精妙な巧みさ・磨きぬかれ て、 人の目のつかない部分でも決し まだまだ続く下積みの職人の苦労を語る (こうぞ)や三椏(みつまた)などの原料づく て手をぬいてない Ĕ た美しさ・ 我が た手渡き 厳しさ を含め 国

和紙も丈夫で美しいという特質のため、障子紙やはじめは記録するという書写材料が目的であっ 日本人の生活のあらゆる面で使われている。 みはる異例な事柄なのである。 このように多方面に使用される例はなく、 外国の紙、 親しんで当り前のことのように思われるが、 くった調度品、 ・佐賀錦などの染織、 例えば和紙の元祖である中国の紙を含めて、 張り子や折り紙などの玩具などと 障子紙や襖紙と 外国人が目を 和紙以外の もはや慣れ

紙漉きで「重要無形文化財」(俗にいう人間国宝)に指定

日本経済新聞社 昭和四十五年)。 の姿を客観的に明らかにした功績も大きい 岳文章氏らと正倉院の紙を調査し、 認めない風潮もあった中で、 というほどであるが、 「近頃は民芸紙という言葉を使わないようにして 欧米まで広めた。また、長年の経験をいかして、 従来、 和紙の 工芸の一部門として和紙を 和紙が始まった当時 価 値を国内のみなら (「正倉院の紙」 いる。」

奉書を、試験場ではかってみたら井の岩野市兵衛さんの昔どおりの と数回から数十回も曲げるとちぎれてしまう。 端を何回も折り曲げてみるとよく分ることだが、 らし が十分にからんでいるので、ことのほか丈夫である。紙の それに対し、長く強靱な繊維を使う楮紙は、 採取する他ないなどの不便もあって、 く評価されている。ただ栽培がきかなく、 米の人 光沢をもち、 雁皮紙はきめの細かな紙肌で、 縦方向 た丈夫さを示したことがある。 いが素朴な、 (々からも紙王とも、東洋の羊皮紙とも呼ばれて高 (紙の天地方向)では実に八 験場ではかってみたら、横方向で一、五五九 防虫にも優れ、 飽きのこない味合いがある。長い繊維 保存力があることから、 木灰煮でつく ぬめりのような独特の 生産量は少ない。 野生のも Þ へった越前かつて福 やあらあ 洋紙だ のを 欧

岩野さんも「重要無形文化財」

の保持者であ

·~

その時、 として奉書紙や杉原紙は大いに用いられたが昭和五十一年に亡くなられた。中世の武士社 昔どおりの紙がな 用途がなくなって、 色の深みを出すために、 広重・春信らの版画用紙を研究して、要望にこたえ 岩野さんは新聞で東京の浮世絵木版画の人々が いとい っているのを読み、上京して歌 いても売れずに困ってい 同じ色でも何回も刷り重ね 中世の武士社会の公用紙 明治維新 た。

先有



代が購入して長い間枯らした、水に強い良材である。光さんの名は、全国の紙漉きが知っている。材料の桧は、漉き桁を組みたてる、高知の桁づくりの有光弘範さん。

崩れな に現代社会で和紙をどういかしていくかの研究を怠らな ほども伸び縮みがなく、 り重ねる場合もあるが、 頭は新しく。」と仲間の紙漉きに説いていた。 いのが優れた職人である。 このように昔どおり 時には数百回もバレンで強くこすっ 岩野さんの紙 女の人の髪の一本一本の表現が 岩野さんはよく、 の仕事をして はそれに耐 「手は古く、 ても、 ż て 毛刷

州半紙(島根県三隅町石州半紙技術者会)・本美濃紙(岐阜はやはたり、漉き方もそれぞれ異なるので、紙に風土色が色があり、漉き方もそれぞれ異なるので、紙に風土色が 紙は数が多いばかりでなく、 紙色と柔らかな紙肌をつくる三椏があげられる。 雁皮や三椏を漉く人々は少なく、 県美濃市蕨生 した紙である。 川紙技術者協会)などは、 和紙の三大原料として雁皮・楮とともに、 本美濃紙保存会)・細川紙 そうした優れた風土性をあらわ 地域によって楮の性質に特なく、大半は楮紙である。楮 (埼玉県小川町 おだやかな l かし 細

・程村紙(栃木県烏山町 福田製紙所) に次の楮紙が選択されている。小財」に次の楮紙が選択されている。小財」に次の楮紙が選択されている。小財」に次の楮紙が選択されている。小財」に次の楮紙が選択されている。 が求められる。 各地の紙漉きが一軒と少なくなり、記録作成に緊急性 似が選択されている。小国紙(新潟県小国町「記録作成等の措置を講ずべき無形文化 福田製紙所)•泉貨紙 菊池五介・菊池一男) (愛媛県野

所で黙々と漉き続けてきた紙漉きの誠実さのゆえであ

漉き簀の竹ひごをつくる高知の高橋房美さん。80歳 だが、毎日、元気に竹ひごをつくり、全国の簀編みさ んに送っている。

仕事があ いった。 た。 紙漉きよりも更に日の当らぬ所での誠実な

\$\$\$\$**@**\$

百年後にいたるまで、その製法の主要部分に崩れがなく、

典具帖紙(高知県伊野町 浜田幸雄)。以上の紙は、てみぐじょう。 するくじょう。 村町 菊地定重)・清帳紙(高知県吾川村 片岡藤藤村町 菊地定重)・北きょうし

片岡藤義)

江戸時代に名紙として全国に知られたものであっ

た。 すでに ・ 土 と 佐さ

数

で働いている訳だが、この漆刷毛の製作者は五軒ほどに 髪が必要となる。今どき、パーマネントなどで痛めてないるが、これには漆の嫌ら油性が少ない日本女性の長い った。 技術に対しても、 和五十年に文化財保護法の一部を改正して、 て求めて ら、役にたたない。こうした現実の危機に直面して、 刷毛をつくる人や国内産漆そのものが絶えてしまっ 定されている。 ねて彫る彫漆・漆塗りの髹漆などが重要無形文化財に指ば漆工でいえば、金粉を文様に蒔く蒔絵・色漆を塗り重える加飾や仕上げの技が中心となりがちであった。例え の泉清吉さんは、 りや道具づくりの技術者が、現在絶えようとしている。 かに蒔絵や髹漆の後継者を養成しようとも、 従来の無形文化財の保護では、 五十センチほどの髪など、 例えば、漆塗りに使う漆刷毛は人間の髪の毛を用 (本来は海女の髪を最上とした)。 いる。 あるいは中国やヴェトナム等から輸入され 輪島塗をはじめ、 しかし、 積極的な保護対策が行われるようにな 『島塗をはじめ、数多くの塗師が各産神社に奉納された古い髪などを苦心 こうした技術を支える材料づく めったに手に入るもので わば最終工程とも 選定された保持者 文化財保存 漆を塗る 各産地 昭 た

から、国内産は全消費量の二%にみたない。五トン、表面に現れない量を推定すると倍ほどであろういる漆は約五○○トンほどだが、国内産漆は公式には約

ど)に送られている訳である。もし、このおばあさんや 産地に一人や二人はいる簀編みさん(全国で合計二十人ほ くりは八○歳のおばあさん一人、編糸づくりは七七歳の ように思われるかも知れぬが、一番基礎となる竹ひごづ 保存団体に認定されている)。漆工にくらべると意外に多い 国手漉和紙用具製作技術保存会が結成され、文化財保存技術の 漉きの道具づくりは、 厚薄のむらが生じ、簀目はみにくく乱れる。まさに風前 おじいさんがただ一人となる。この老人の手から、主要 従い、技術者が高齢化し、後継者不足が深刻になるとい ろ、その生産額は天地ほど大きく違うが、基礎にいくに の灯ともいえる危機である。漆工にしろ、手漉和紙にし おじいさんが止めたら、紙漉きがいくら苦労しても紙に の分野も似たような事情であろう。 う逆ピラミッドの構造は同様だ。おそらく他の伝統工芸 紙漉きの数は現在、六○○軒前後かと思われるが、紙 約四○人である(全国の技術者で全

作技術研修会で数人の後継者が育ちつつある。昭和五十一年度から継続して行っている手漉和紙用具製昭かにして、最後のカンフル注射が間にあったのか、

ひごづくりの技術者の高橋房美さん(明治三十三年生れ)を訪ねると、小さな庭に面した縁側が作業場だ。竹を割り、鋼に穴をあけて通す。竹には微妙に反りかえるくせがあるので、それを見分ける。鋼の穴も通していると次があるので、それを見分ける。鋼の穴も通していると次第に大きくなるので、所定の太さに決めるのは指先の触感である。体で覚えた計測が何よりも正しい。鋼に穴をあける道具は、昔ながらの舞錐を使う。どの分野にしろ、道具づくりは手間をいとわず、昔ながらの仕事を厳格に守らざるを得ない。高橋さんも昔は大勢の職人を使って、盛んにひごを作って送ったこともあるが、紙漉きが減少していくにつれ、責任者の自分一人が残った。しかし屈託のない明るい笑顔で、毎日、縁側にすわって仕事をしている。不況で注文が絶えようが、毎日の仕事は欠かさなかった。誰に頼まれたのでもない。この働き者欠かさなかった。誰に頼まれたのでもない。この働き者のおばあさんの小柄な体に、手漉和紙界の全重量がかかっていることを考えると、その笑みが胸に深くしみる。

— 50 **—**

編 集

後

記

MEI |文部時報 | 61 月刊 11 月 무 第1242号

著作権 所有

文

昭和55年11月5日 印刷

昭和55年11月10日 発行

株式会社ぎょうせい

本 社 東京都中央区銀座7丁目4番12号 (郵便番号 104) (営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地

> (郵便番号 162) 電話 東京 (268) 2141 (代表) 振替口座 東京 9-161番

印刷所 株式会社 行政学会印刷所

定価200円

(〒33円)

年間購読料 2 4 0 0 円

(干共)

- ・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し 受けます
- ・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはもよ りの書店にお願いします